

ば、我々がここに存在する最も大きな因は、親の存在です。親もその両親がいなければ、我々は存在しなかつた訳です。つまり、先祖がいたからこそ、ここに今生きています。その先祖に有り難うと感謝を伝え、現状を報告する作業、これが先祖供養です。お彼岸は、供養の一つの機会です。たとえ、法要に参加できなくても、彼岸に渡られたご先祖に家族の様子をご報告頂きますよう御願ひ致します。

永代供養という言葉

数年前に納骨壇を増設しました。世間で流行りの「終活」の影響もあるのか、納骨堂に加入したい方も増えてきました。この時に「納骨堂の永代供養をお願いします」と言って申し込まれる方がおられます。納骨堂に加入するのは加入(使用)契約を結ぶ事で、「供養は加入者がするものですよ」とお話ししています。家庭によつては、子どもが居ないので自分の代以降は誰も供養してくれる者がいないので不安だという方、その他の事情で、後が

心配だという方もいます。こう言う場合は、不安を抱えたまま生活するのも問題ですし、別途に永代供養の契約を結びます。しかし、原則として親の供養は子が行うのが前提だと思います。たとえ核家族化が進んだとしても、親子の「縁」は縁です。子どもに迷惑を掛けたくないからと言われる方もいらっしゃると思いますが、親の供養という作業は迷惑なのでしょうか？ 私は面倒であっても務めるべきは務めるのが筋だと思えます。場所によつては納骨堂加入と永代供養を一つにして募集されるお寺もあります。当寺は、加入と供養は分けて考えています。



緋恩衣被着の許可

昨年、晋社式を修行して本庁より緋色の衣を着る許可を頂戴しました。現在、熊本県第一宗務所の副所長という職についています。過去にも青年会活動に励んできました。これらを功績

として、永平持護持団体の推薦をうけ、恩衣(襟と袖に十二単の縁取りがしてある衣)を着る許可を戴きました(緋色の恩衣で緋恩衣です)。自分が、そのような衣を着るに値するか疑問です。何より恥ずかしいのですが、折角、推薦と許可を戴きましたのでお知らせいたします。

今年こころにZEN

毎年、開催している企画も少しずつ定着してきました。近年、音楽会等の色々な企画をお寺で開催する所も増えてきたようです。「お寺は生きている人々が、より良く生きる術を学ぶ場所」これは高校生の頃から、私が言い続けてきた事です。世相の不安か、伝統回帰なのかは分かりませんが、坐禅を始めお寺や仏教に興味を持つ人が増えているように思います。お寺に一步足を踏み入れる、本堂の中

の空気に触れる、そこでの何かを感じて頂ければ幸いです。この数年、私が考える仏教の視座について話をしてきました。今年も、他の宗教や他の仏教教派の方との対談を久しぶりに行いたいと思つています。日本のジャズベース界の最重鎮、鈴木良雄氏も来て頂けます。近年評判の良かった円熟のグループ「ベース・トーク」(毎年それぞれのグループが素晴らしい演奏をしますが)を率いてのプレイを予定しています。近頃は、居酒屋からラーメン屋までBGMにジャズが流れるようになりました。

それだけ身近になつたジャズの生演奏を、是非お楽しみ下さい。



定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より

当山本堂にて

一炷(約四十分)坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話(約二十分)。今は正法眼蔵坐禅儀。会費、会則一切なし、初めての方は連絡下さい。

平成二十八年 浄国寺予定
四月二十九日(金) 午後二時
松本喜三郎 墓前祭
喜三郎翁 追悼供養
谷汲観音供養 その他
施餓鬼会法要
お盆増信徒先祖総供養
十月二十一日(土) 午後六時
「いま 心」
仏教講演会 鈴木良雄 & 記念音楽会 Bass Talk

身辺雑記

今年度から幼稚園・保育所の制度が変わった。女性による労働力の確保とそれに伴う待機児童の解消が主な目的である。そこには大切な乳幼児期の成長と発達という部分が抜け落ちていく。同時に大人としての成長も忘れられている。大人になりきれない親を「親」という一人の大人に育て上げるのは「子」の存在だ。小さい子は理屈抜きに親を鍛えてくれる。誰でも辛い事、きつい事は嫌で、避けたいと考える。親であっても同様だ。しかし、それを経験して初めて身につく事が沢山あるのも頑然とした事実である。爺婆は孫に甘いので何でも引き受ける。施設も一所懸命に子どもに接している。政治家は票目的で良い顔がでる制度を作る。斯くして、子が育つ環境は変わり、子育てのコンビニ化が進む。かわいそうなのは、当のことも違である。